

平成 31 年 1 月 17 日

一般社団法人 浦和地区労働基準協会 会長
一般社団法人 川口地区労働基準協会 会長
一般社団法人 大宮地区労働基準協会 会長
一般社団法人 熊谷地区労働基準協会 会長
一般社団法人 川越地区労働基準協会 会長
一般社団法人 春日部労働基準協会 会長
一般社団法人 所沢地区労働基準協会 会長
一般社団法人 行田地区労働基準協会 会長
一般社団法人 秩父地区労働基準協会 会長

殿



埼玉労働局労働基準部健康安全課長

(契 印 省 略)

変異原性が認められた化学物質に関する情報について

標記につきましては、平成 31 年 1 月 17 日付け埼労発基 0117 第 1 号「変異原性が認められた化学物質の取扱いについて」により埼玉労働局長から通知したところですが、当該化学物質に関する下記の資料を送付いたしますので、貴会傘下会員又は傘下事業場への周知の参考として御活用いただければ幸甚に存じます。

記

別紙 1 変異原性が認められた届出物質に関する情報一覧

別紙 2 変異原性が認められた既存化学物質に関する情報一覧

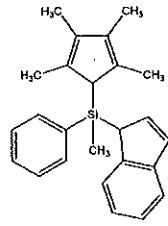
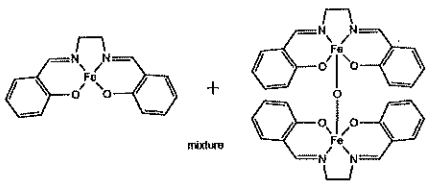
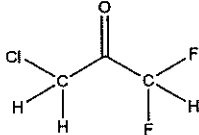
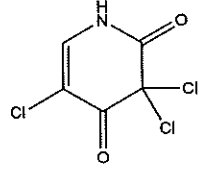
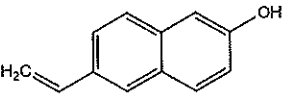
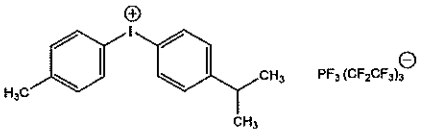
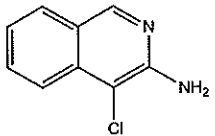
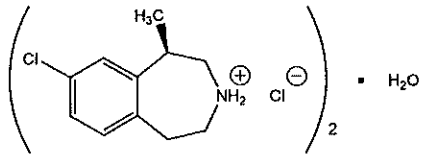
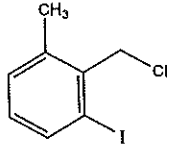
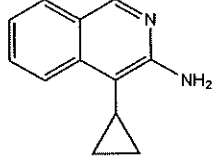
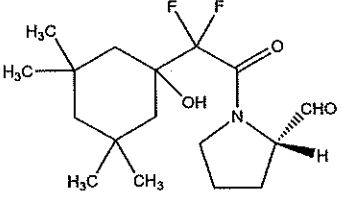
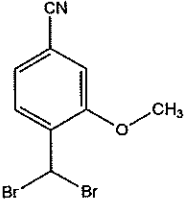
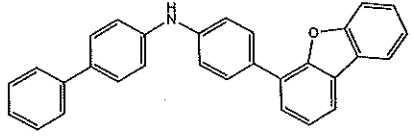
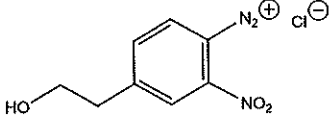
別紙1 変異原性が認められた届出物質に関する情報一覧

安衛法官報 通し番号	名称公表年月日 名称公表告示番号	名称	構造式	性状	用途の例
1	平成29年12月27日 厚生労働省告示第 364号	1H-インデン-1-イル(メチル)(フェニル)(2,3,4,5-テトラメチルシクロペンタ-2,4-ジエン-1-イル)シラン	別添参照	褐色液体	触媒の中間体
2	26412	{2,2'-[エチレンビス(アザン-1-イル-1-イリデン-κN-メタン-1-イル-1-イリデン)]ビス(フェノキシド-κO)}鉄とμ-オキシド-ビス{(2,2'-[エチレンビス(アザン-1-イル-1-イリデン-κN-メタン-1-イル-1-イリデン)]ビス(フェノキシド-κO))鉄}の混合物	別添参照	黄褐色粉末	触媒
3	26426	3-クロロ-1,1-ジフルオロアセトンの水溶液	別添参照	透明液体	医薬品中間体
4	26482	3,3,5-トリクロロピリジン-2,4(1H,3H)-ジオン	別添参照	黄色粉末	医薬品原薬の中間体
5	26507	6-ビニルナフタレン-2-オール	別添参照	白色～淡黄色固体	製造中間体
6	26591	(4-インプロピルフェニル)(4-トリル)ヨードニウム=トリフルオロ[トリス(ペントフルオロエチル)]-λ ⁵ -ホスファイト	別添参照	淡橙色固体	光酸発生剤
7	26638	4-クロロイソキノリン-3-アミン	別添参照	薄黄色固体	医薬品中間体
8	26657	(1R)-8-クロロ-1-メチル-2,3,4,5-テトラヒドロ-1H-3-ベンゾアゼピン-3-イルム=クロリド-水(2/1)	別添参照	白色粉末	医薬品
9	26659	2-(クロロメチル)-3-ヨードトルエン	別添参照	淡褐色固体	治験原薬の中間体
10	26674	4-シクロプロピルイソキノリン-3-アミン	別添参照	黄緑色固体	医薬品中間体
11	26691	(2S)-1-[2,2-ジフルオロ-2-(1-ヒドロキシ-3,3,5,5-テトラメチルシクロヘキシル)アセチル]ピロリジン-2-カルボアルデヒド	別添参照	白色粉末	製造中間体
12	26698	4-(ジプロモメチル)-3-メキシベンゾニトリル	別添参照	褐色粉末	医薬品中間体
13	26702	N-[4-(ジベンゾ[b,d]フラン-4-イル)フェニル]ピフェニル-4-アミン	別添参照	白色粉末	有機EL材料中間体
14	26745	4-(2-ヒドロキシエチル)-2-ニトロベンゼンジアゾニウム=クロリドを主成分とする、亜硝酸ナトリウムと2-(4-アミノ-3-ニトロフェニル)エタノールと塩化水素の反応生成物	別添参照	黒色液体	ポリマー原料の中間体
15	26785	3-(プロモメチル)ブタ-3-エン-1-イル=プロピジオナート	別添参照	暗褐色液体	合成化学品原料
16	26995	(2-フルオロ-4-ニトロフェニル)アセトニトリル	別添参照	黄色固体	治験薬中間物
17	26996	{(1R,2S)-2-(3-フルオロフェニル)-2-[(トシルオキシ)メチル]シクロプロピルメチル=アセトナート	別添参照	粉末	医薬品原薬の中間体
18	27009	ペンタ-2-イル-1-オール-の臭素化反応生成物の1-プロモペンタ-2-イル-精製時の蒸留残渣	-	橙色～褐色液体	廃棄物
19	27089	オキシペン-2-イルメチル=ジフェニルホスフィンナート	別添参照	淡黄色～褐色	合成樹脂原料

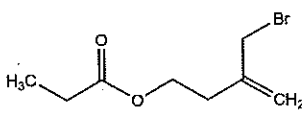
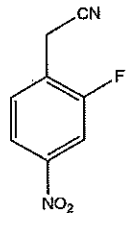
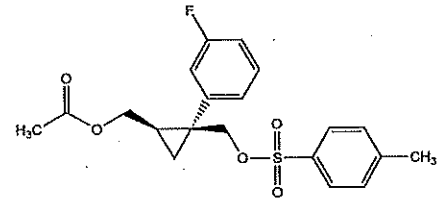
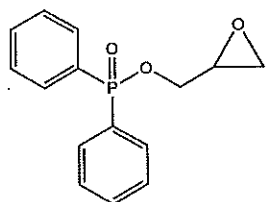
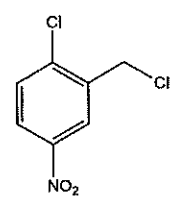
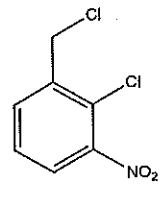
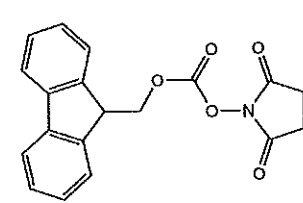
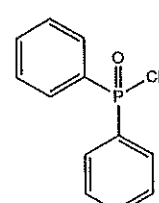
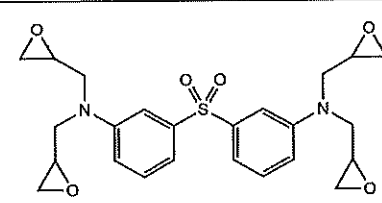
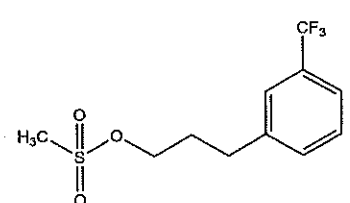
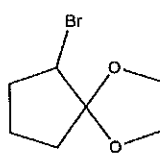
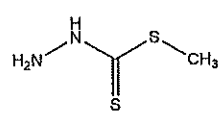
別紙 1 変異原性が認められた届出物質に関する情報一覧

安衛法官報 通し番号	名称公表年月日 名称公表告示番号 338号	名称	構造式	性状	用途の例
20	27100	1-クロロ-2-(クロロメチル)-4-ニトロベンゼン	別添参照	淡黄色結晶	農薬中間体
21	27101	2-クロロ-1-(クロロメチル)-3-ニトロベンゼン	別添参照	淡黄色結晶	農薬中間体
22	27112	2,5-ジオキソピロリジン-1-イル=9H-フルオレン-9-イルメチル=カルボナート	別添参照	白色固体	電子材料
23	27126	ジフェニルホスフィンイル=クロリド	別添参照	黄色～黄褐色	合成樹脂原料
24	27157	N, N, N', N'-テトラキス(オキシラン-2-イルメチル)-3, 3'-スルホニルジアニリンを主成分とする, 2-(クロロメチル)オキシランと3, 3'-スルホニルジアニリンと3, 4'-スルホニルジアニリンの縮合反応生成物	別添参照	黄色粘性状液体	電子材料
25	27174	3-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]プロピル=メタンスルホナート	別添参照	白～微褐色固体	医薬品中間体
26	27233	6-プロモ-1, 4-ジオキサスピロ[4. 4]ノナン	別添参照	微黄色液体	医薬品中間体
27	27261	メチル=ヒトラジンカルボジチオアート	別添参照	白色固体	医薬品中間体
28	27262	メチル=6-(プロパ-2-イン-1-イルオキシ)-2-ナフトアート	別添参照	茶褐色結晶	電子材料原料

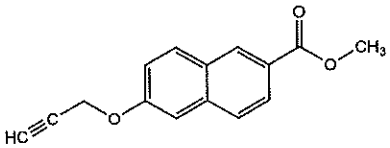
別添 変異原性が認められた届出物質の構造式

安衛法官報 通し番号	構造式	安衛法官報 通し番号	構造式
26401		26412	
26426		26482	
26507		26591	
26638		26657	
26659		26674	
26691		26698	
26702		26745	

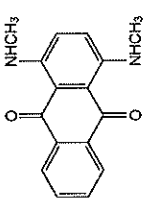
別添 変異原性が認められた届出物質の構造式

安衛法官報 通し番号	構造式	安衛法官報 通し番号	構造式
26785		26995	
26996		27089	
27100		27101	
27112		27126	
27157		27174	
27233		27261	

別添 変異原性が認められた届出物質の構造式

安衛法官報 通し番号	構造式	安衛法官報 通し番号	構造式
27262	 <p>The chemical structure shows a naphthalene ring system. At the 6-position, there is a methyl ester group (-COOCH₃). At the 1-position, there is an ethoxy group (-OCH₂CH₂-) which is substituted with an ethynyl group (-C≡CH) at the end of the ethyl chain.</p>		

別紙2 変異原性が認められた既存化学物質に関する情報一覧

化審法・安衛法 官報公示整理番号	CAS N o.	名 称	構造式等	常温の性状等 (固体、液 体、気体)	用途	変異原性試験結果の概要 ※1	出典
5-5119	2475-44-7	ソルベント ブル---78	 <chem>CN1C=CC2=C1C(=O)C=C2C(=O)N</chem>	固体 融点：- 沸点：- 蒸気圧：-	-	Ames試験最大比活性値： 3.9×10^6 rev./mg	・厚生労働省

※1 各変異原性試験の判断基準

- 微生物を用いる変異原性試験 (Ames試験) において強い変異原性が認められるとすると比活性値は、概ね1,000 (revertants/mg) 以上
- は乳酸培養細胞を用いる染色体異常試験において強い染色体異常誘発性を示すと評価する濃度は、 D_{50} 値が概ね0.01 (mg/ml) 以下
- マウスリン浮細胞では、いずれかの試験系で突然変異頻度が陰性対照の4倍、又は陰性対照より 400×10^{-6} を超えている場合、強い陽性と判断
- in vivo 小核試験で陽性が出た場合には、強い陽性と判断